



占冠村120年記念植樹

樹海と清流、豊かな自然環境の中で暮らし今年で120年を迎えた占冠村。この記念すべき節目の年を祝し、これまで守り続けてきた美しい郷土占冠を次世代へと引き継ぐため、占冠村民による記念植樹が行われました。



令

和4年10月1日(土)、
下トマムの村有林にて
占冠村120年記念植

樹が行われました。

雲一つない青空の下、会場には約80人の参加者が集い、まずは全体植樹としてカラマツの苗木約280本を植樹。子どもたちも大人に負けじとスコップやくわを使って一生懸命穴を掘り、夢中で作業している様子が見られました。全体植樹の後は、代表者らによってイタヤカエデの苗木が5本植えられました。最後は参加者全員で記念撮影を行い、記念品として「しもかぶ工房」製作のカッティングボードが贈られました。

この催しは、森林に親しむことで環境に配慮した考えや行動を促し、脱炭素社会の実現に向けて村民の意識の醸成を図る目的で開催されたものです。いつか皆さんが植えた木々が大きく成長し、この場所にとくさんの緑が芽吹くのが待ち遠しくもあり、楽しみでもあります。

終始皆さんの笑顔と活気に包まれ、子どもからお年寄りまで幅広い世代が交流している光景は、占冠村の明るい未来につながる希望を感じさせてくれました。